



令和 6 年度 施設関係者評価 報告書

1. 当法人のミッション・ビジョン

ミッション

こどもを生み育てる感動を、私たちの地域から社会への広げていくこと。

ビジョン

子育ての楽しさを伝えるエンターテイナーになろう。

2. 当園の教育・保育理念と方針

教育・保育理念

地域に根ざし誰からも信頼される子育て支援の中核的施設を目指します。

教育・保育方針

こどもの最善の利益を考え、生涯にわたる人間形成の基礎である「生きる力」を育みます。

3. 当園の教育・保育目標

・健やかな子ども ・心豊かな子ども ・考える子ども

4. 本年に当園が取り組むべきと計画した重要事項

- ・「こどもまんなか社会」実現のための多機能化検討
- ・寝屋川市就学前教育・保育プログラムに沿った保育内容の検討・既存の保育内容のブラッシュアップ

5. 自己評価及び評価項目について

大阪誠昭会では、教育・保育の質を高め子どもの成長をより豊かにするため「幼保連携型認定こども園・教育保育要領」を基にしてつくられた自己チェックリストを用いて年 3 回自己評価を行っています。自己チェックリストでは、単に評価結果を出すだけではなく「個人の評価」「園全体の評価」「園内研修の教材」「カリキュラム・マネジメント（教育・保育計画へのフィードバック）」の 4 つのポイントで自己の能力を判断すると同時に園全体として、具体的にどのようなことに力を注ぐことが必要なのかもチェックリストを使った評価で見えていきます。保育教諭の一人一人の努力を園全体として有効なものとする事で園と職員の評価を高め、教育・保育を豊かにすることに繋ぐことを目指しています。

詳細についてはホームページ内の「令和 6 年度 自己評価報告」に譲るとして、総合的に園の独自性の部分の評価が低くなっており、それ以外は比較的高い水準を維持している。これからはますます少子化が進む中で、園の独自性、特徴となるところを築きのばしていく必要がある。

6. 公開保育（令和6年9月10日（火）開催）を見学しての意見・感想等

5歳児テーマ：言葉遊び「言葉すごろく」

【A 委員】

すごろくの内容を見て、年長児のこの時期に「二つもどる」などができていたので、それまで言葉遊びにたくさん経験をしてこられたのだと感心しました。グループの話し合いもどのグループも自然とリーダーらしき人ができていて話を引っ張っている姿にもこれまでの先生のかかわりが分かります。後から長い言葉が先に行けることに気づき、それも楽しさが増しました。ここまでできるクラスなので、保育者のかかわりを少し引いても良いのかもしれません。子どもにまかせてもできると思います。保育者の援助は①子供の自己実現を助ける。②子どものモチベーションを助ける。③子どもの発達水準をサポートすることだと思います。保育者の計画に沿ったではなく「こどもからどう引き出すのか」ということを後期にもっていくととっても面白いクラスになるかと思います。

【B 委員】

「皆で作ったすごろくで遊ぶ」というクラス全員で楽しめる活動が内容だったので、こども達も楽しんで参加しており、とても盛り上げられました。気になった点としては子どもの待ち時間が長く感じたことと、先生の声が少し大きかったことが挙げられます。



4歳児テーマ：対話を通した共同画「土の中はどうなっている？」

【A 委員】

対話もして画を共同で作製することは、40分内という枠内では4歳児には無理をさせてしまいます。

計画の段階で考慮すべきだったかと思います。「保育者の願い」に「伝え合う面白さを感じたり」とありますので、まずは言葉の面白さや「土」に関する不思議などを感じることで豊かな表現に繋がるかと思っています。もし、共同画を主体とするならば、導入やねらいが変わります。どちらに主を置いているのか、迷っていらっしやったかなとも思いました。また、子どもから言葉を引き出すときに、黒板で字で書いていましたが、それだけで伝わったのでしょうか？視覚的にイメージを膨らませるためのものがあつたならば、もっと、言葉を引き出せたかもしれません。ドキュメンテーションではカブトムシについて深く掘り下げての会話が見えました。このまま続けて公開保育にもってきたら、おもしろかったかもしれません。また、視点に「保育者のファシリテーターとしてのあり方」とありますが保育者がファシリテーターになるとその場を上手く収めることばかりに気を取られます。対話などの保育者心がけは ①子どもの気持ちを理解し説明してあげる人②子どもに主導権を取らせる人③子どもの変化を焦らず待つ人だと思います。担任の先生の子どもから話を聴こうとする笑顔は子どもに安心を与えていました。とても大事なことです。

【B 委員】

こどもの気持ちを大切にした保育を日ごろからされているなと感じました。子どもたちに選択をさせることがたくさん見られましたが、4 歳児には求めるねらいや目的のレベルが高いのではないかと思います。



7. 施設関係者評価委員の意見及び感想等総合的所見

法人の理念に基づき、教育・保育目標等が設定され、それに沿った年間計画、月案等が計画されている。

また、園の状況を踏まえた教育目標等の設定状況については、園の教育課程の編成・実施の考え方についての教職員間の共通理解がなされ、行事の管理・実施体制の状況、教育週数、1日の教育時間の状況も適切であった。

教育・保育内容としてはチーム保育などにおける教員間の協力的な指導の状況 がみられ、認定こども園教育要領の内容に沿った幼児の発達に即した指導の状況 が把握できた。特にエージェンシーを意識した幼児の主体的な活動の尊重や遊びを通しての総合的な指導の状況が伺えた。 なかでも気になる子などの一人ひとりの発達の特性に応じた指導、職員間の周知が徹底していた。 また、校区の小学校との連携もなされ、公開保育当日も小学校の教頭が評価をされ、その他行政や民生児童委員も参加されていた。園内のみならず、畑での活動など環境を通して地域との繋がりが園児への教育にも配慮されていた。職員の自己評価を年に3回実施し、常に運営の改善につなげるための課題、改善の方向性等を提示することで職員の目標が立ちやすいように示してある。更に個別面談等で常に職員のキャリアパスを考慮したシステムは、職員が働く上でのモチベーションに繋がるのではないかなと思う。これも法人の理念が明確で重点的に取り組むことが必要な目標や計画を定めやすいことであるように思う。今後は教育方針について 短期や中長期の具体的な目標があると更に良いと思うので期待したい。

